

新潟地震の被害状況

■津波

発災後約 30 分後に襲来した津波は海岸部に到達したのち、信濃川や阿賀野川をさかのぼりました。新潟市の低地帯では津波と地下水の噴出により泥の海と化し、多くの地域で浸水被害が出ました。

また、新潟港に來襲した津波の高さは、港内では突堤・棧橋・導流堤など複雑な施設によって、場所によりかなりの差が生じました。臨港埠頭付近で 1m 程度の津波も、万代島では 2.4m と増大しました。

■液状化・地割れ

被害が集中したのは新潟市をはじめとした川沿いの旧河道や埋立地などの地域でした。これらの地域における地盤の表層は土砂がゆるく堆積した層であるため、地下水位の高いところで液状化が起きました。これにより、いたるところで地盤の沈下が起こり、建築物は沈下し、マンホール、地下貯留槽などの埋設物が浮き上がりました。

また、潟の周辺にもかなりの被害がありました。鳥屋野潟や福島潟周辺地域では、地表に多数の地割れが生じ、地盤の沈下あるいは隆起が起こったため、農地や道路などがいたるところで大きな損傷を受けました。

一部では、地盤の水平移動もみられ、川沿いでは兩岸の地盤が川の中に押し出されました。市街地や農地などでは地面の水平方向の伸縮によって敷地境界に不規則な変形が生じました。

■火災

一般家屋からの出火はほとんどありませんでしたが、山の下にあった昭和石油新潟製油所の爆発火災により、付近の家屋約 270 棟が焼失しました。

製油所付近は、地震による地下水の噴出や数度にわたって打ち寄せた津波のために浸水し、水面にはタンクやパイプから漏出した多量の油類が漂っていました。火はこの油類に引火してたちまち一体に燃え広がり、周辺の住宅に延焼しました。タンク火災が完全に鎮火したのは、出火から 15 日後の 7 月 1 日でした。